

<青葉に白>この節季は一面の青葉の中に花の白が冴えます。代表格は“ウツギ、卯の花”でしょうか。雑木林や垣根で月明かりにも白い花が目を惹きます。「卯の花や水の明かりになく蛙（一茶）」は今のピオトープにも合います。一方、林の縁で佳い香りを漂わせひっそりと咲いているのがスイカズラです。“金銀花”と言われるように咲き始めの白から黄色に変わっていきます。筒状の花の甘い蜜を吸うので“吸い葛”、英語でも“honeysuckle”。そして葉を付けたまま冬を忍ぶので“忍冬（にんどう）”という生薬（解熱抗菌作用）になります。



<ウツギ>

<もっと白>ヤマボウシの青葉と白い花も遠目に目立ちます(No.5 参照)。「花も実もある」ヤマボウシと違い、花よりも秋口の実に頭を巡らしてしまうのが“ガマズミ”です(No.24 参照)。同じく何気なく通り過ぎそうなのが“イボタノキ”です。白い花を沢山付けているのに華やぎに欠けるような---。秋口の黒い実も美味しくなさそう、それに枝が



<スイカズラ>

白くなって病んでいる姿、惨々な悪口です。ところがこの白いのは“イボタロウムシ”の為せる技で日本刀などの手入れに使う良質な蝋の原料とのことです。昔の人たちの知恵を今更ながら感じます。一方、雑木林の明



<ガマズミ>

るい下生えの中で真っ白な穂状の花を咲かせている“アカシヨウマ”はダイエットに使うとか、今の人の知恵でしょうか。



<イボタノキ>



<遠い昔から>キャンパスの土手のあちこちに数十センチに伸びた白い穂が何千と風にそよいでいます。千の茅、“チガヤ”古くは“ツバナ”の花です(左写真)。



<アカシヨウマ>

「茅花(ツバナ)さく岡にのぼれば風の吹く(村上鬼城)」、モネの「日傘の女」が似合いそうな景色を想像します。ところで子供の頃にガキ大将に教えられ若い穂を噛み、甘かったという記憶があります。実はサトウキビの親戚で万葉の昔からツバナは食用にされていたようです。



<黄や紫>野や林から植え込みに来れば花の色が変わります。キンシバイの黄色やムラサキツユクサの紫の花の他“キキョウソウ”(上写真)の小さな赤紫があちこちに見られるようになりました。

(文と写真：松本正勝)